道徳だより

Do 徳？ どう説く？ 道 talk.

テーマ：第２９回京都市道徳研究大会のまとめ

令和６年１０月
京都市立道徳教育研究会
広報部
（第５号）

小中一貫教育における道徳教育および「特別の教科　道徳」の意義や指導方法について研鑽を深める

「小中９年間を見通した道徳教育の充実」

上山　貴子教諭（修学院中学校）　小林　慈教諭（京都御池中学校）

令和５年度の山科中学校での実践を報告されました。内容は大きく３つの取り組みについての報告であり、①リレー道徳、②ローテーション道徳、③中学校ブロック内での共通した重点項目の設定でした。「リレーローテーション道徳」とは、愛知県の中学校の実践を山科中学校版にアレンジしたものであり、全学年扱う内容項目を統一し、５or6 週かけて行います。

リレー道徳・・・・・・・教材（指導案）を順に回していく方法。
ローテーション道徳・・・１人の教員が学年の３クラスに授業実施し、指導案を随時改善する方法。

効　果

リレー道徳・・・指導案の改善、教材研究力の向上
ローテーション道徳・・・指導力の向上、補助発問・板書の工夫

また、山科中学校ブロックでは、山科中、百々小、山階南小が「ふるさと山科」を愛する子どもを育成する目標をもとに教職員間の情報共有をはじめ、内容項目の精選など、密に連携し、９年間の道徳教育で「山科の心」を育てているそうです。

文部科学省指定　「道徳教育の抜本的改善・充実に向けた取組」

～教職員一人ひとりが自分事となる校内研修の在り方～　島崎　紀理教諭（美豆小学校）

美豆小学校での校内研修の在り方の実践を報告されました。

授業の基本スタイルの統一についての実践報告の後、道徳の授業から他の授業への活用に向かっている内容が伝えられました。最後に、教員一人一人が自己の課題に向き合う内容を４点紹介していただきました。

その１…「共通解から納得解へ」。一般的な「道徳的諸価値」「こたえ」を経た、自分にとって大切な「こたえ」を目指す授業へ挑戦する。

その２… 子どもたちと「めあて作り」。どの教科でも取り組むこと、継続し、チャレンジすることで、うまくめあてを作ることができる。

その３…「感想を書いてから授業を行う」。事前に教材を読む→感想を提出→主発問という流れで取り組む。教材の内容を理解できるというメリットも紹介。

その４…「道徳で培った技能を他教科でも生かす」。板書の字を大きく簡潔にすることや、児童が話しやすい発問を行うこと、自分の言葉で説明することなどを道徳科での学びを生かす。

実践報告後はたくさんの質問が寄せられ、島崎教諭をはじめ、美豆小学校の研究主任が応答されるなど、美豆小学校のチームワークの良さが伝わってくる質疑応答となりました。

講演　「よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育」
文部科学省 初等中等教育局 教育課程課　堀田 竜次 教科調査官

京都市の道徳教育の実践報告の成果と課題を講評いただきました。「成果」には、多面的・多角的な授業を展開できていること、また「課題」には、実践的知見の見える化、共有化が挙げられていました。

PISA 調査結果を踏まえた文部科学省の取組の「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」の中に道徳教育の目標である「自立した人間の基盤となる道徳性を養うこと」が挙げられており、道徳教育の必要性が一層感じられました。調査官の講演の中で、小学校の道徳科の目標に挙げられている「自己の生き方についての考えを深める」という内容があり、授業づくりの原点として明示されていました。

また、ICT 機器の活用方法について、以下のように例示されていました。

- ☑ 教材の提示
- ☑ 実態の提示
- ☑ 生活の様子の提示
- ☑ 自己を見つめられる考えの蓄積
- ☑ アンケート収集
- ☑ 自分や他者の考えの共有場面
- ☑ 外部の方のメッセージの提示

特に最後に挙げた「考えの蓄積」は、キャリア教育においても大きな効果があると感じました。ICT 活用は個別最適の要素を大きく含んでおり、自己調整の場面をつくることもできます。思考ツールの活用ができるとワークシートが不要になり、素早く共有することで多面的、多角的な見方が期待できます。チャットの活用についても、テレビに映して行うことで、すばやく人の考えに行きつくことができます。注意点として、ICT 活用が目的ではなく、手段であることを理解し、学習に組み込むことを挙げられていました。

最後には道徳科の特質についても具体的に説明され、「人生いかに生きるべきか」を児童と教師が共に探究していく授業を目指していくことの大切さを教えていただきました。

まとめ（広報作成者からのメッセージ）

今回初めて夏季研究会に参加することができ、たくさんの知識や実践事例を学ぶことができました。京都市や全国の素晴らしい実践を自校や支部の教科主任会などで伝え、児童に実践していく意欲が湧く時間となりました。校内での伝達研修に役立てたいという「参加者の声」も聞こえてきました。自分自身も自校の若年教員研修で今回の学びを伝達したいと思っています。

最後になりましたが当日までのご準備に関わられた先生、当日発表という重責を果たされた先生、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

【文責】沖　一真（日野小学校）